

平成26年度

施策評価マネジメントシート(平成25年度の実績評価)

記入年月日

平成 26 年 6 月 10 日

施策No.	政策名	安心と安らぎのある健康福祉社会づくり	主管課	健康推進課	主管課長名	飯泉 尚志
201	施策名	健康づくりの推進	関係課	国保年金課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
	健康で元気に暮らす事が出来る	市民	①桜川市人口	人	見込値			45,122	44,571	44,020	43,469	42,920	41,897	
実績値					46,575	45,673	45,105	44,449	43,826					
						見込値								
						実績値								
健康で元気に暮らす事が出来る			②生活習慣病による死亡数(人口10万人当り)	人	目標値			766.8	806.8	846.8	886.8	926.8	966.8	
					実績値	687.1	726.8	717.1	709.4	762.8				
		③特定保健指導該当者の割合			%	目標値			17.0	16.3	15.8	15.3	15.0	
						実績値	19.2	17.3	17.0	17.4	15.5			
							目標値							
							実績値							

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	<ul style="list-style-type: none"> 健康診査を積極的に受診する。また、精密検査が必要という結果がでたら必ず医療機関を受診する。 自分の健康は自分で守るという意識のもとで、健康づくり活動に積極的に取り組む。 健康づくりのイベントやボランティア活動に積極的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規受診者・未受診者への受診勧奨をしていく。 健康診査を受けやすい環境づくりをしていく。 疾病予防、生活習慣病予防に関する相談・教室の充実を図る。 健康づくりに関する意識の啓発に努める。 健康づくりを促進するボランティアの育成・支援を行う。
状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	<ul style="list-style-type: none"> 生産年齢人口が減少し、少子高齢化が進むと考えられる。 健康づくりに関する情報が氾濫して、いつでも情報を得ることが可能な時代になっている。そのため、自己判断により、健康を害してしまうことが考えられるので、適切な指導が必要である。 オーダーメイドの時代:一人一人の個別対応が求められるようになってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民アンケートの優先度・満足度調査では、満足度が高いが優先度も高くなっており、引き続き力を入れる施策分野である。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
①健康意識の啓発と健康づくりの推進	児童生徒、成人、高齢者	健康に関心を持ち健康づくりに取り組む	健康のため何らかのことを心がけている人の割合	実績値	88.1	89.5	87.0	87.2			
				%							
②健康診査等の充実	成人、高齢者	疾病を早期に発見できる	①特定健診受診率	実績値	37.4	35.8	36.9	36.0			
				%							
				②定期的に健康診断を受けている人の割合	実績値	37.6	37.8	39.6	48.0		
					%						
③母子の健康づくり	母子	母子ともに健やかに子育てができる	①乳幼児健診受診率	実績値	91.8	93.9	93.7	93.8			
				%							
④			②子育ては楽しいと感じる保護者の割合	実績値	92.2	91.4	87.8	91.1			
				%							

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

項目	単位	24年度実績	25年度実績	26年度予算
①本施策を構成する事務事業の数	件	26	27	26
②施策事業費(一般財源以外)	千円	36,193	10,906	14,758
③施策事業費(一般財源)	千円	138,654	150,338	167,534
④施策事業費の計(②+③)	千円	174,847	161,244	182,292
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	41,663	49,596	46,602
⑥計(④+⑤)	千円	216,510	210,840	228,894

5. 施策に関連する主要事業等

区分	事務事業名	摘要
主要事業	健康づくり計画推進事業	後期基本計画主要事業
事務事業	特定保健指導事業	H25貢献度上位
事務事業	生活習慣病予防事業	H25貢献度上位、H26優先度上位
事務事業	乳幼児健康診査事業	H25貢献度上位
事務事業	食生活改善推進員協議会委託事業	H25貢献度上位

施策番号	201	施策名	健康づくりの推進	主管課	健康推進課
------	-----	-----	----------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)-①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>・健康で元気に暮らしている市民の割合は、市民アンケートよりH21年度67.0%、H22年度78.8%、H23年度79.2%と少しずつ増えていたが、H24年度78.4%、H25年度75.1%とこの2年間は低下傾向にある。市民が取り組んでいる個別の内容としては、H25年度がH24年度より率が上がっているのは①よくよしない。②定期的な健診である。また下がっているのは①食事のバランス。②運動を心掛ける。③十分な睡眠である。</p> <p>・生活習慣病による死亡数(人口10万人当り)H20年度654.2、H21年度687.1、H22年度726.8、H23年度717.11、H24年度709.4人、H25年度762.8人であり、徐々に下がってきている</p> <p>・平成20年度より制度化された特定健診・特定保健指導について特定保健指導該当者の割合はH23年度17.0%、H24年度17.4%、H25年度は15.4%である。</p> <p>・適切な医療が受けられれていると感じている市民の割合は、市民アンケートよりH23年度42.8%、H24年度47.7%、H25年度43.8%であり、定期的に医療機関を受診している割合はH23年度37.8%、H24年度39.2%、H25年度43.0%と年々高くなっており、かかりつけ医をもつ傾向が少しずつ増えていると思われる。</p> <p>・乳幼児健診で①受診率はH24年度93.6%、H25年度93.8%と高い状況であるが、②乳幼児健診問診表より子育ては楽しいと感じる保護者の割合はH22年度92.2%、H23年度91.4%、H24年度87.8%と低下傾向にあったが、H25年度はアンケート調査後最高の93.8%となった。しかし、育児不安や孤立不安を抱えている保護者が6.2%いる状況である。</p> <p>・子育て支援センターに参加している保護者はH24年度延べ参加者10,094人、H25年度10,579人と約476人と増加している。</p> <p>・育児相談の問診票により、赤ちゃん訪問を受けた214人中、育児に不安がある人は64人、訪問により不安が解消したと答えた人は54人である。</p>		

1)-②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<p>①健康で元気に暮らしていると思う市民の割合はH25年度目標値80.0%のところ75.1%で4.9ポイント下回っている。</p> <p>②生活習慣病による死亡数は(人口10万人)H25年度目標846.8人のところ、H25年度762.8人と84.0人上回っている。</p> <p>③特定保健指導該当者の割合は、H25年度目標値15.8%に対し0.3ポイント目標値を上回った。これは、メタボリックシンドロームの該当者が減ってきたことによるものと思われる。特定健康診査受診率はH23年度35.8%、H24年度36.9%と少し高くなっているがH25年度は36.0%と下がっており、目標値の40%を4ポイント下回っている。また、特定保健指導を修了した率はH23年度38.0%、H24年度は45.8%と伸びている。これは、H24年度の目標値40%を5.8ポイント上回っている。</p>		

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<p>①生活習慣病による死亡数は(人口10万人)当市はH24年度実績709.4人、県下ワースト9位からH25年度762.8人で53.4人増え県下8位となった。しかし、県平均586.4人よりもまだ高く、県西地区621.7人よりも高い状況である。筑西市は21位、結城市30位で県西地区は県内でも高い傾向である。市は男性では脳血管疾患、急性心筋梗塞、糖尿病、女性では脳血管疾患、糖尿病、急性心筋梗塞による死亡率が高い。生活習慣・食生活による運動不足や食塩の過剰摂取と野菜の摂取不足と考えられる。</p> <p>②H24年度特定健康診査・特定保健指導終了率は県が33.0%・25.9%、筑西市30.4%・45.5%、結城市は23.3%・21.9%に比べ当市は37.3%・45.8%と健診受診率・保健指導終了率はともに高くなっている。また、保健指導終了率はH23年度14位、H24年度5位となった。</p>		

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか、その他の特徴は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
背景・特徴	<p>・市民アンケートの優先度・満足度調査では、優先度・満足度も高くなっており、重点維持項目になっている。</p>		

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題	<p>・H25年度において、主に成人と母子に対し、「生活習慣を改善する」「育児への負担感や不安感を解消する」ことに重点的に取り組んだ。</p> <p>・施策の成果向上に貢献した事務事業としては、「特定保健指導事業」「生活習慣病予防事業」「乳幼児健康診査事業」「がん検診事業」「健康増進法に基づく検診事業」「妊婦・乳幼児健康教室」であった。</p> <p>・「特定保健指導事業」は該当者を概ね6コースの集団支援(すっきり3・3教室)に分け対応をした。また、個別支援を希望する者には個別で対応をした。生活見直し表から改善目標を立て、6か月間のプログラムを作成し支援を行った。H25年度においても、教室欠席者には家庭訪問を実施した。</p> <p>・「生活習慣病予防事業」は生活習慣病予防を図るため、市民健康講座5回(延169人参加)・糖尿病教室3回(延89人参加)・健康運動教室5回(延103人参加)を行った。</p> <p>また、特定健診受診者で高血圧で医療機関未受診者(血圧160/100以上)102名を対象に家庭訪問を行い受診勧奨と生活面の指導を実施した。</p> <p>・「乳幼児健康診査事業」は、各健診とも受診率は向上しており、未受診者には電話や訪問などで受診勧奨を行った。</p> <p>・「がん検診事業」はがん検診受診者の増加を図るために、健康推進員による受診の呼びかけや市民祭で大腸がんの検診方法のPRを行った。その結果、大腸がん・子宮がん・前立腺がん検診の受診者が増加した。</p> <p>・「健康増進法に基づく検診事業」は「若年者健診」「骨粗しょう症検診」「B型・C型肝炎ウイルス検診」を実施した。H25年度は特に若年層の意識を高めるため特に、若年者健診対象者の37~39歳の国保加入者に個別通知をした。さらに、事後指導を新規に集団指導で行ったところ要指導者64名中37名(参加率57.8%)が参加した。</p> <p>・「妊婦・乳幼児健康教室」はベビーママクラスを行った。また、H25年度より新規で「思春期教育事業」を3か所の中学校で実施をした。この事業は桜川市内の小・中学生を対象に性に関する正しい知識を図り、命の尊さについて学ぶことにより、望まない妊娠さらには虐待を予防することを目的に実施をした。</p> <p>・その他の事務事業としては、「健康増進計画の進行管理事業」「自殺対策基金事業」は、H25年度は健康増進計画の中間見直し時期であり、さらに新規で食育推進計画と歯科保健計画の3つの計画を一体化させ、特に生活習慣病予防に重点を置いて「きり健康プラン」を策定した。「自殺対策基金事業」はこころの問題への理解を深めるために講演会・ゲートキーパー研修を行った。また、市民祭及び、市内2か所の店頭において啓発活動のためキャンペーンを実施した。</p>
-------------	--

8. 今後の課題と方針

区分	今後の課題	今後の方針
施策全体	<p>・健康で元気に暮らしている市民の割合は75.1%と高いが、定期的な健診を受けている人や適切な健康づくり活動に取り組んでいる人の割合は年々上昇しているものの、運動不足と栄養バランス等は下がっている。また塩分の過剰摂取等により生活習慣の死亡率は県内でも高い。</p> <p>・母子を取り巻く環境の変化に伴い、相談内容が多様化している。</p>	<p>・生活習慣病・感染症等の疾病予防やこころの健康保持についての意識啓発に取り組む、市民一人ひとりが「自分の健康は自分で守る」という意識をもち、自ら参加できる健康づくり事業を推進します。また、市民が健康診査の必要性を理解し受診するよう継続して受診勧奨を実施する。</p>
基本事業	①健康意識の啓発と健康づくりの推進	<p>市民が「自分の健康は自分で守る」という意識を持ち、自ら取り組めるよう、講演会や広報等により情報を提供していきます。さらにこころの健康づくりのためにうつ病についての普及啓発や身近な人がこころの変化を気づき早期に専門機関につなぐゲートキーパー養成を行う。さらに健康プラン「健康増進計画・食育推進計画・歯科保健計画」に掲げた各目標にそって事業を展開していく。</p>
	②健康診査等の充実	<p>市民が自ら健康診査の必要性を理解できるよう広報やホームページ等で情報提供を行う。また、特定健康診査の受診率を上げるために30歳から39歳の若年者を対象に個別通知をしていく。また、特定健診未受診者には再度受診勧奨をする。がん検診については、子宮・乳がん検診にポイントをおき、健康推進員による声かけや子宮がん・乳がん・大腸がんの未受診者には無料クーポン券を利用してのコールコールを実施していく。</p>
	③母子の健康づくり	<p>赤ちゃん訪問や育児相談・各種乳幼児健診で保護者の悩みや育児不安をよく聴き、健診の中での子育て相談の利用を勧めると共に、こころの相談(産後うつ)の相談を勧め早期支援をしていく。</p>